

令和2年度 京都府立東宇治高等学校学校経営計画（総合評価）
（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>自主性を基盤に、社会と関わり、課題を解決しようとする人の育成をめざす。</p> <p>そのような人を「みらいを明るくできる人」と定義し、その育成のために、生徒に次の姿勢を身に付けさせる。</p> <p>(1) 挑戦する姿勢 (2) 周囲と関わる姿勢 (3) 努力し続ける姿勢</p>	<p>平成30年秋に公募制の東宇治みらい会議を設置し、「育てたい生徒像」「身に付けさせたい力」「そのための学び(特に探究的な学び)」「その学びを具現化する『総合的な探究の時間』の内容」などを検討してきた。</p> <p>1年半の議論を経て、東宇治高校がこれから目指す教育の方向性について一定の結論を得ることができ、本年度からの中期経営目標として明示することとなった。</p> <p>令和2年度は東宇治みらい会議が提言した方向性の実現に向けて、第一歩を踏み出す年度とする必要がある。同時に令和2年度は、生徒のさらなる減少を抑えた山城通学圏における東宇治高校の在り方について、中長期的な検討を開始する年度としたい。</p>	<p>中期経営目標に掲げた「みらいを明るくできる人」の育成、及び「3つの姿勢」の涵養のために、本年度は次の目標に重点を置く。</p> <p>(1) 人権意識と社会性の涵養 日々の教育実践が、人としての基本を身に付け、人権意識を備えた人材の育成の場であることを常に意識する。</p> <p>(2) 授業改善 新学習指導要領の理解を進め、「知識・技能の習得」を礎に、「自ら学ぼうとする力」や「知識を活用して問題を発見・解決する力」を育成するため、不断の授業改善を行う。</p> <p>(3) キャリア教育と進路指導 社会への貢献、社会とのかかわりを意識づけるキャリア教育を進めるとともに、高大接続改革などに対応した丁寧な進路指導を一人ひとりに行う。</p> <p>(4) 外部機関との連携 大学や地元小中学校、地域の団体などとの連携を深め、グローバル社会・地域社会で活躍するための素養を醸成する。</p> <p>(5) 総合的な探究の時間 みらい会議の提言実現のため、令和2年度入学生「総合的な探究の時間」運営に注力する。</p>

重点目標

<分掌・領域>

A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:ほとんど達成できなかった

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
組織・運営	<ul style="list-style-type: none"> 適正なサービス処理 本質的な「働き方改革」の模索 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員に適正なサービス処理の周知徹底。出退勤打刻システムの100%の定着及び超過勤務者のさらなる削減。 短期経営目標の実現に向けた教職員の「働き方改革」の推進。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 出退勤打刻システムがほぼ定着したと見られる。若干ではあるが、遅くまで勤務する教員がいる。教員の健康管理の面からも、業務の適正な分担については考えていかねばならない。 充実感、達成感に満ちあふれる生徒の顔を多くみられる学習舎であるという観点から、理想的な働き方改革を目指すことが大切である。
教務部	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領の教育課程の作成 授業改善に向けた取組 	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度入学生の教育課程の作成を行う。 連動して、授業改善に向けた取組やICTの積極的な活用を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度入学生の教育課程の編成を行い、2学期から各教科等を通じて調整を行っている。 授業公開については、今年度から参観カードを配付して、自分の教科と他教科を1回ずつの合計2回を目標にした。 多くの先生に参観してもらったことができたが、平均2回の目標が達成できなかった。 教育系SNSの導入を行い、利活用を進めた。

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
総務企画部	国際理解教育を探究学習を通じて推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な探究の時間」実施に必要な業務を計画的に行う。 ・グローバルネットワーク京都への取組を継続的に行う。 ・国際理解教育に関して各教科との連携を強化する。 	B	「総探」の運営は、指導担当者の尽力のもとで組織的な指導が行えた。次年度は、1・2年生での実施になるため、更なる組織的な運営と役割分担が課題となる。グローバルネットワークの取組では、実施された論文分野で最優秀賞を獲得できた。但し、実施されなかった分野への取組について生徒間での経験の継承が途切れる結果となったため、次年度の取組を「総探」との関連でいかに行うかが大きな課題となる。
	状況に応じた情報発信を推進し、積極的な広報活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動において、Web等を有効活用して情報発信する。 ・学校公開の内容を課題に応じた内容に適宜変更する。 ・PTA・教育後援会と連携し、保護者への理解を深める活動を行う。 		新型コロナウイルスの影響で、学校公開各回の実施形態、それに伴う募集の時期や方法を大きく変更する必要が生じたが、Webによる公開などICT活用や関係教員と連携により昨年度同様の内容で行えた。次年度も状況に合わせた変更を行う。PTAの活動は、組織の立ち上げから各行事の中止や変更に伴う対応まで、年間を通じて運営に様々な困難が生じた。役員の協力により、なんとか必要な活動を進めることができた。メールによる情報発信は、今年度の状況下では、特に有効であった。
生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の統一化 ・学校生活と部活動における、指導基盤の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部が核となり、全教員による生徒指導内容の統一化を図る。 ・生徒が授業等の学校生活と部活動を一貫した姿勢で取り組めるような指導体制の構築 	C	<p>コロナウイルス感染症対策に伴い、文化祭など生徒指導部主幹の行事を行えなかった。軽微な問題行動から、重度な問題行動まで部活動部員によるものが多くあった。また、身だしなみ指導など一貫した指導になりきれていなかった。但し、生徒会が中心となりコロナ禍における行事や感染症対策についての呼びかけを行うことができた。いじめ事象などに対して、学年や生徒指導担当者会議のメンバーの先生方と連携して行うことができた。</p>
進路指導部	生徒が進路学習を通じて、挑戦する姿勢や努力し続ける姿勢を涵養できるように支援する。	生徒の主体的な進路決定のために必要な進路学習を企画運営する。また、入試に対応できる確かな学力をつけるための啓発活動を行う。	B	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・休業の影響は少なくなかったが、企画は一通り実施することができた。 ・人権学習はほぼ計画通りに実施できた。
	人権意識の涵養につながるような啓発活動を行う。	人権意識を高めるきっかけとして、人権教育や人権研修を企画運営する。	B	<p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度入学生からの教育課程変更に伴うキャリア教育計画の再検討が必要である。
保健部	生徒の心身の健康を守り、安心・安全な学校づくりを推進する。	担任との連携を図り、健康上配慮の必要な生徒や不登校傾向など、様々な課題を持つ生徒に対する相談活動を充実させるとともに緊急性・必要性を見極め、カウンセリングを有効活用する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者(スクールカウンセラー、担任)と連携し不登校傾向のある生徒及びその保護者と支援が必要な生徒について相談活動を実施した。 ・特別支援が必要な生徒に対しては地域支援センターうじとの連携を図った。 ・保健研修会を2回実施し研修を深めた。 ・新型コロナウイルス感染症について感染予防・防止対策に取り組んだ。
図書部	読書活動を通して生徒の情操を豊かにするとともに、広汎な知見や幅広い思考力・積極的な探究心を持った生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科と連携し、図書館の利用および図書の貸出を促進する。 ・年間貸出冊数0冊の生徒の割合を全体の30%未満とし、1人あたりの年間貸出冊数8冊以上を維持し、図書委員会等の活動を通して生徒に対する読書の啓蒙に努める。 ・生徒の積極的な探究活動が円滑に行える環境を整備する。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科・理科・保健体育科・英語科および総合的な探究の時間などで閲覧室の利用が行われた。 ・年間貸出冊数0冊の生徒は全体の56.5%(464人)であった。 ・2月12日現在の貸出冊数は4791冊(5.8冊/人)であった。 ・新型コロナウイルス対策としてパーティション設置や消毒などを行った。
第1学年部	自主性を基盤に、基本的な生活習慣の確立、学習習慣の確立、好ましい生活集団の構築、に積極的に取り組ませる。進路実現に向けて目標を持たせ、努力をし続ける姿勢を培う。	<ul style="list-style-type: none"> ・東宇治手帳をはじめ、家庭学習チェックシート等を活用し、一日を朝学習からしっかり取り組めるよう指導する。 ・学校行事、クラス活動、各教科を通じて、他人を思いやり自己の役割を十分に果たさせる指導を行う。 ・様々な場面で進路について話題にすることで、早期に進路希望を明確にさせる指導を行う。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣については概ね確立できた。 ・家庭学習チェックシートを活用していたが、十分な確立には至らなかった。 ・日常から他の人を思いやる態度と心について指導をしていたが、3学期になりいじめ事案が起こってしまったということは、検証し2年次には決して起こらないようにしなければならない。

領域	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
第2学年部	進路目標の具体化と、他者と協働して課題を解決する集団づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次で取り組んだ挨拶の励行、朝学習の定着、東宇治手帳の活用など基礎的な習慣を基に、2年次ではLHRでの進路学習や面談を通して学習意欲を向上させ、基礎学力を定着させる。 ・部活動や学校行事において主体的に参加行動する姿勢と、生徒が相互に認め合う集団を育てる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染防止のためのさまざまな制限下において、生徒たちは健康管理と人権意識のある行動を実践し、大きな混乱もなく落ち着いた集団生活を送ってくれた。 ・その中で学習活動では、目標設定や取り組みに対する意志を持続できず、生徒相互が高めあう集団づくりとしては課題が残る。 ・主な学校行事(文化祭・体育祭・研修旅行)の中止や規模縮小、部活動公式戦の中止や活動制限により、自主活動と生徒間交流の場を失った生徒たちの喪失感は大きい。第3学年次では、進路目標達成に向けた取り組みと、実施可能な学校行事への積極的な参加を両立できる集団を目指したい。
第3学年部	将来のビジョンを明確にして最後まで継続して努力させ、希望進路の実現に挑ませる。	<ul style="list-style-type: none"> ・人や社会との関わりを意識させて、ホームルーム活動や将来の進路についての指導を行う。 ・主体的に学習に取り組めるように、学習室や進学講習を有効に活用するよう促す。 ・学習する雰囲気を持続したホームルーム経営に努める。 ・入試制度が変わることを念頭に置き、情報収集などの準備を早期より指導する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルス感染症に関連して、人や社会との関わりを話す機会が増し、生徒自身が考える時間・担任が説明する時間も増えた。結果として「手洗い・マスク・黙食」等の感染予防に対する意識づけができた。 ・進路指導部と協力して、入試の情報収集等を速やかに行うことができ、生徒の進路実現につなげることができた。早期に進路決定した生徒も多かったが、概ね最後まで学校生活を大切に過ごすことができた。その中で、受験で浮足立つ生徒もおり、指導上の課題となった。 ・機会は少なかつたが、仲間との諸活動を通して自らを高めようと努め、最高学年としての範となるよう学校生活を送った。
事務部	学習環境の整備並びに希望進路実現の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の効率的な執行と経費節減に努め、冷暖房等に必要予算を確保し、学習に集中できる環境を整備する。老朽化した施設設備の改修についても引き続き計画的に実施する。 ・希望進路実現に向けて、就学支援の一層の周知を図るとともに、個別対応も丁寧に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は新型コロナウイルス感染対策に重きを置いた予算執行となったが、その状況下において可能な範囲で学習環境の整備や老朽施設設備の改修のための予算確保に努めた。 ・就学支援についてはコロナ禍で様々な制約がある中、周知方法を工夫し、丁寧な個別対応を実施した。
教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
国語	「大学入試共通テスト」や改訂された学習指導要領に対応するため、積極的な授業改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討論など対話的学習を積極的に行う。 ・「考える力」の基礎となる漢字、語彙の学習を丁寧に行う。 ・授業の中で積極的に文章作成に取り組みせ、記述力を養う。 ・週末課題など自主学習を促す指導を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染予防対策による制約があったが、工夫をしてグループ討論を行うことができた。また、作文指導などもedmodoを利用して一定の指導を行うことができた。週末課題の提出、漢字小テスト、古文単語テストも定期的に実施することができた。
地歴公民	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な学習につながるように、生徒の興味・関心・意欲を高め、自学自習の力を身につけさせる。 ・希望進路を実現させるための学力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT・視聴覚教材の学習指導計画に基づく適切な活用 (A: 予定通り実施できた B: 每学期実施 C: 毎月実施) ・JICAエッセイコンテストに対する指導 (A: 個人入賞した B: 学校表彰された C: 全員が参加した) ・教科内での授業研究 (A: 毎月実施できた B: 学期に1回 C: 授業公開中に1回) ・進学講習の実施(進学受講者の模試偏差値(全国偏差値)・共通テストの平均が A: 偏差値60・得点75 B: 偏差値55・得点68 C: 偏差値50・得点60) 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・主に進学講習・社会探究においてICT・視聴覚教材を活用することができた。また、休校期間中や進学講習において動画作成やedmodoを活用し、進路支援を行った。各HR教室のプロジェクトター設置に伴い、効果的なICT・視聴覚教材の活用について研究する必要がある。 ・エッセイコンテストは全員提出し、学校特別賞を受賞した。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、事前学習に十分な時間を費やすことができなかった。 ・授業研究については授業公開期間以外での授業研究の実施が少なかつた。 ・進学講習を実施し、幅広い志望校への受験対策を行った。共通テストでは昨年度センター試験の校内平均を上回った。2年生から継続して地歴公民科を学習する習慣がなく、力がある生徒は指定校や学校推薦型入試で受験を終える生徒が多い。
数学	基礎的な数学の学力を確実に身につけさせ、大学入学共通テストに向けて学んだ知識を活用して問題を解決する力を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎授業の改善やテスト前の補充、小テストの実践などで基礎的な学力を確実に身につけさせる。 ・定期テストに知識を活用する問題を出し、その対策を通して応用する力を身につけさせる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる影響があったものの、必要に応じてテスト前の補充や小テストなどを実施し基礎的な学力を一定程度身につけさせることができた。 ・定期テストにおいては知識を活用する問題が出せていないテストもあり、来年以降の課題である。

教科	重点目標	短期経営目標達成に向けての具体的取組	評価	成果と課題
理科	科学的な自然観や考え方を身につけ、自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする生徒を育てる。	多様な学力層の生徒から学習意欲を引き出し、継続的に自ら学ぼうとする力を身につけさせる。また、実験や体験的活動に取り組ませ、難易度の高い課題にも挑戦する力を身につけさせる。さらに、グループ活動や課題発表の機会を設け、周囲と関わる姿勢をもって、他者と協議し課題を解決する力を身につけさせる。	C	感染症予防のため、実験授業やグループ活動に制限があった上、休校による限られた授業時数の中で十分な発展課題を行わせることができなかった。一方で、分散授業の実施や、動画配信による家庭学習のサポート、Edmodoを活用した進学講習の実施など、従来と異なる形での教育活動を試みることができた。来年度は、動画教材や実験授業をさらに充実させるとともに、ICTを活用した教育活動の幅を広げていきたい。
芸術	芸術の幅広い諸活動を通して、芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	表現力、鑑賞力を伸ばすために、基礎基本となる技術の習得を重点的に行うとともに、芸術科相互の実践研究の交流を充実させる。	B	・新型コロナ感染拡大予防のため、制限を設けざる負えない活動(歌唱分野)もあったが、各科目とも一定の技術水準への到達をめざす指導を行い、一方で生徒一人一人の進捗状況を把握し、個々の感性や能力に応じ年間を通して適切な指導、助言を行った。「ひろがる心展」の運用も変更、日程を拡大し授業内で科目ごとの鑑賞となったが、充実したものとなった。今後も鑑賞指導、とりわけ生徒同士相互の作品・発表に対する相互評価力の向上に向けた授業改善に取り組んでいきたい。
保健体育	『知』『徳』『体』の調和のとれた生徒の育成。健康の保持増進に必要な活動を自主性を持って自ら実践できる態度を養う。	運動の目的や必要とする技能、知識を理解させ、より深く考えながら運動を実践する生徒を育てる。スポーツを楽しむ態度を育て、「体育嫌い」や「運動嫌い」を減らす。卒業後もスポーツに親しみたいと感じる事のできる指導をし、生涯スポーツに結びつけたい。	B	コロナ対応として、種目の選定と活動方法に苦労した。具体的には、密を回避するため、身体接触が多く、室内のため換気が難しいバスケットボールを、年間を通して全学年実施しなかった。今後のコロナの状況にもよるが、バスケットボールに変わるゴールのスポーツを考えなければならないだろう。現状では屋外のハンドボールが候補である。又、春先に実施している集団行動ができていないことが、今後に影響しないかが懸念される。暗中模索の一年だったが、大きな事故、感染問題が起こらなかった事は、現状では大きな成果であるとする。
家庭	自立して家庭生活を営むための基礎的・基本的な知識と技術を身につけさせる。	実験・実習など実践的な学習を通じて、アクティブラーニングの手法を活かし、生徒の興味・関心を高め、理解を深められるようにする。	B	新型コロナウイルス感染防止のため実験・実習に大きな制約があり、実習教科である家庭科の授業展開は困難を極めた。実習室や物品の消毒に努め、可能な限りアクティブラーニングの手法を活用できるようにした。生徒は指示をよく守り、制約が多い中でも積極的に学ぼうとする姿勢を失わなかった。成人年齢引き下げに伴い、消費者の権利と義務について外部講師を招聘して学ばせることができた。
英語	英語によるコミュニケーション能力を強化するための授業改善の取組を行う	全学年の4技能のテストを以下のとおり実施する。 ・リーディングテスト(初見)は年間4回以上 ・リスニングテスト、スピーキングテスト、ライティングテストは各々年間2回以上 英語科研究チームを主に、パフォーマンステストについてのガイドライン及びCAN-DOリストの見直しをする。	B	コロナによる休校期間があったにもかかわらず、パフォーマンステスト等を実施することができた。 例年以上の回数を実施できたことにより、新たな形式のライティングテストを実施したり、ガイドライン及び評価基準の見直しができる。 CAN-DOリストの検討がまだ十分にできていない。
情報	高度情報化社会の中にある課題を認識し、情報機器を活用した解決の方法や情報モラルについて考えさせる。	・新しい情報活用手段のあり方について、パソコンやタブレット等を利用した情報活用を行う ・他教科との連携を図り、様々なICT機器を活用して生徒と教員の技術向上を目指す	B	・PCやiPadなどを利用し、グループ活動を通して情報活用を行うことができた。 ・Word,Excel,PowerPointを用いて文書の作成等を行い、ICT機器に対する技術が向上した。 ・新型コロナウイルスの影響により他教科との連携を円滑に行うことができなかった。
総合的な探究の時間	実施初年度として基本計画に定める目標を達成できるように、各学期の取組を円滑に行う。	・学習内容を項目ごとに丁寧に検討する。 ・指導担当者間の情報共有を詳細に行う。 ・外部講師や機関との連携を積極的に行う。	A	新型コロナ感染拡大の影響による計画の一部変更があったが実施初年度の内容を無事終了できた。実施に当たっては、指導担当者の尽力のもとで組織的な指導が行えた。 後半の「地域課題探究学習」では、地域人材との連携により学習を進めた。次年度は、1・2年生での実施になるため、更なる組織的な運営と役割分担が課題となる。